



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 水球競技エキスパート指導者の試合中に与える指示に関する知識

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川上, 哲, 杉原, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/819">http://hdl.handle.net/2309/819</a>

## 水球競技エキスパート指導者の試合中に与える指示に関する知識

川上 哲・杉原 隆

健康・スポーツ科学\*

(2005年6月30日受理)

### 1. はじめに

作戦計画を立案し、それをプレーヤーに伝え練習で指導したことが、全てゲームにうまくプレーされると限らない。ベンチにすわりゲームを指導するコーチは、指導した作戦がどのようにプレーされているのかを観察し、機を失せず適切なアドバイスをしなければならない<sup>1)</sup>。その際、コーチが戦術上の判断を下す場合には、自分の選手の能力、各々の決定に対する利益とリスク、相手の選手の長所と欠点、といった判断基準に対してそれぞれの重みづけを的確にとらえていかなければならない<sup>2)</sup>。実際に競技場面においてベンチから、またハーフタイムやタイムアウト中に選手に指示を与えている光景を目にすることが多い。そして、その采配如何で勝敗が左右されることもある。これらのことから、試合中の指導者の役割は非常に重要であるといえる。

このような指導者の知的な活動は「状況判断」として位置づけられている<sup>3)</sup>。そして中川<sup>4)</sup>は、状況判断に優れたオープンスキルの熟練者は豊富な量の知識を持っているだけでなく、高度に構造化された知識を記憶の中に持っている<sup>5)</sup>と示唆している。

近年、Côtéら<sup>5)</sup>、Bloom<sup>6)</sup>によって経験的な観点から、質的研究法をもちいて、コーチングプロセスを理解しようと研究が行われコーチングモデルを提唱している。エキスパート体操コーチを対象にしたCôtéら<sup>5)</sup>のコーチングモデルでは、試合のカテゴリーのなかに

3つの構成要素を示した。それに対し、エキスパートチームスポーツコーチを対象にしたBloom<sup>6)</sup>のコーチングモデルでは、試合のカテゴリーのなかに5つの構成要素を示している。これら2つの研究で得られた結果の違いをBloom<sup>6)</sup>は、互いの競技特性の違いとしている。またチームスポーツにおいて試合中のコーチングが重要であると示唆している。

さらにその後Bloom<sup>7)</sup>は、試合前後で監督と選手に関する決まった行動 (set routine) をもっている事を示している。

前述してきたように、チームスポーツの指導者は、試合中かなり厳しい仕事及要求され、試合中の指導者の役割は非常に重要であることは事実である。また、チームスポーツで試合におけるコーチングが重要であると示唆されている<sup>6)</sup>しかしCôtéら<sup>5)</sup>、Bloom<sup>6)</sup>に研究においても試合中のコーチングに焦点をあてているわけではなく。Bloom<sup>7)</sup>の研究でも、扱っていない。それは指導者の対象を複数の競技にしているので詳細な分析を困難にしていると考えられる。よって、1つの競技を対象にすることによって、その競技特有の知識が得られると考える。また日本代表監督を経験した指導者の知識を明らかにすることは、現場の指導者にとって有益な資料になると考えられ、若手コーチの育成・熟達化の観点から意義がある<sup>8)</sup>と考える。

そこで本研究は、水球競技エキスパート指導者を対象とし、試合中の指示に関する知識に焦点を当て、その知識を定性的に分析することを目的とする。

\* 東京学芸大学 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

## 2. 方法

### 2.1 対象者の選定

水球競技の指導にあたっているエキスパート指導者3名を対象とした。エキスパート指導者としての対象者の選定は、次の3つの基準に従い、その全てを満たすことを条件とした。

指導者プロフィールを表1に示す。

- ・指導歴10年以上
- ・日本水泳連盟等に所属する専門家から優れた指導者として高い評価を得ている
- ・水球競技日本代表チームの監督経験がある

表1 指導者プロフィール

指導者コード	指導歴	コーチング実績
A	22年	元全日本監督・コーチ
B	42年	元全日本監督・コーチ
C	15年	全日本女子監督

### 2.2 研究方法

調査は、深層的・自由回答的調査面接 (in-depth open ended interview) による定性的データ収集・分析によって行った。データ収集の信頼性を高めるために、調査を半構造的調査面接によって実施し、3名の対象者への調査面接内容の均質化をはかった。

データ分析は、Côté等<sup>8)</sup>によって概説されている質的データ分析手法に従って行った。

- ・ミーニングユニット (meaning units) の作成  
テキストデータを、1つの考え、意味を含んでいると理解できるテキストセグメントに分割する作業である。
- ・標題化  
ミーニングユニットの関連あるデータの一部分を抽出することである。
- ・サブカテゴリー分類  
標題化されたデータを比較し類似している標題を集め、カテゴリー化していく。
- ・カテゴリー分類  
類似しているサブカテゴリーを集め、再度カテゴリー化していく。各カテゴリーのデータは、他のカテゴリーのデータとは性質が異なるが、カテゴリー内のデータは類似している。  
という作業で帰納的に分析が進められた。これらをたえず比較しながら帰納的に分析し、新しいカテゴリーの分類や新しいテーマが出現しなくなるまで、4名の研究協力者とディスカッションを行いながら進めら

れた。

### 2.3 手続き

まず調査面接に先立ち、試合中及び練習中の指導現場に立会いラポールの形成をはかった。面接調査は、2004年10月から12月までの間に行われた。面接は、試合中の指示に関する知識に焦点があてられ、50分から80分にわたりおこなわれた。その内容は全て録音された。調査面接後のトランスクリプト (テープおこし) によって、対象者の発話の意味の吟味と同時にテキストデータの作成を行った。

## 3. 結果

### 3.1 発話データ

31,994字からなる、180ページ (400字詰め) にわたるテキストデータから、最終的に159のミーニングユニットが得られた。指導者別では、Aが68, Bが39, Cが52であった。159のミーニングユニットは、最終的に、図1, 2, 3にある32の標題がつけられた。それらは、さらに図1, 2, 3にある13のサブカテゴリー、自チーム・相手チーム・審判の判定・タイムアウト・選手への心的方略・戦術の修正・勝負どころ・リスクの計算・選手交代・審判の判定への対処・コーチの心的コントロール能力・コーチの試合に対する経験的知識・ゲームプランに分類された。これらのサブカテゴリーは、さらに図1, 2, 3にある3つのカテゴリー、状況の把握と予測・戦況の判断と対策・コーチのゲームプランと心的コントロールに分類された。以下、代表的なテキストデータをたどりながら、それぞれのカテゴリーごとに分析内容を検討していく。

### 3.2 戦況の把握と予測

図1に示しているように、このカテゴリーは、自チーム・相手チーム・審判の判定のサブカテゴリーとそれに関連する標題から作成された。エキスパート指導者が試合中に指示する過程において、指導者が試合の観察を通して把握していかななくてはいけない諸要素、また把握した情報や事前の情報に基づいて予測をしていかななくてはならない諸要素を意味するカテゴリーとして作成された。試合中指示を出す場合、状況を把握し、そしてそれらの情報から予測し、次の手立てを打つということが重要になってくるので「戦況の把握と予測」という名称を用いた。

### 3. 2. 1 自チーム

指導者がベンチに座り、まず観察し把握しておかなければならないものとして、自チーム選手の心身のコンディションやチームの状態を把握していることが明らかになった。また、自チームの弱点や個々の選手の特徴といったことは、日ごろの練習や自チームの観察を通じて把握していた。

自チームの選手の特徴に触れて、次のように述べている。

「選手の限界や能力を知って、これでいいという決断をしっかりと持つこと」

自チームの状態に触れて次のように述べている。

「自分たちのチームが自分たちのペースで流れているかどうか、タイミングが合っているかどうか」

### 3. 2. 2 相手チーム

このサブカテゴリーは、指導者が事前の相手チームの情報や試合中に相手チームの戦術の変化を読み取り、また、事前の情報を元に相手チームが行う作戦行動や個々の選手の動きの予測に関わるものである。試合において、相手チームを把握し、そして指導者として相手チームがやってくる戦術行動の予測することが、試合中指示する上で必要であることを意味している。

スカウティングによる情報にふれて次のように述べている。

「相手の事前に相手のスカウティングというか前の試合見るとかビデオ見るとか相手の特徴を探っておいて」

「事前の資料やスカウティングと合っているかどうか確認している。」

相手のディフェンス戦術に触れて、次のように述べている。

「最初の攻めはマッチングというよりもやはり相手手がどういうシステムで守ってきているか、ハードなプレスなのかゾーンなのかとか、そしてその見極め。」

### 3. 2. 3 審判の判定

水球競技において攻防の中でファールが起これば、レフェリーの笛が鳴り、相手にフリースローが与えられ、プレーを再開する。ファールの重さによっては一時的にフィールドから出なければならない「退水」や、キーパーと1対1でゴールを狙うペナルティーシュートが行われることもある。よって、試合の戦況に非常に関わってくる。水球競技は、このような特性を持っている競技なので、審判の判定基準を把握することが重要な要素として明らかになった。

審判の判定基準に触れて、次のように述べている。

「審判個々の特徴、例えばハンドオフを取るとか、それで同じことをやってはいけないわけだから、それはやっぱり交代するかクォータータイムで指示をする」

### 3. 3 戦況の判断と対策

図2に示しているように、このカテゴリーは、タイムアウト・選手への心的方略・戦術修正・勝負どころ・リスクの計算・選手交代・審判の判定への対処の

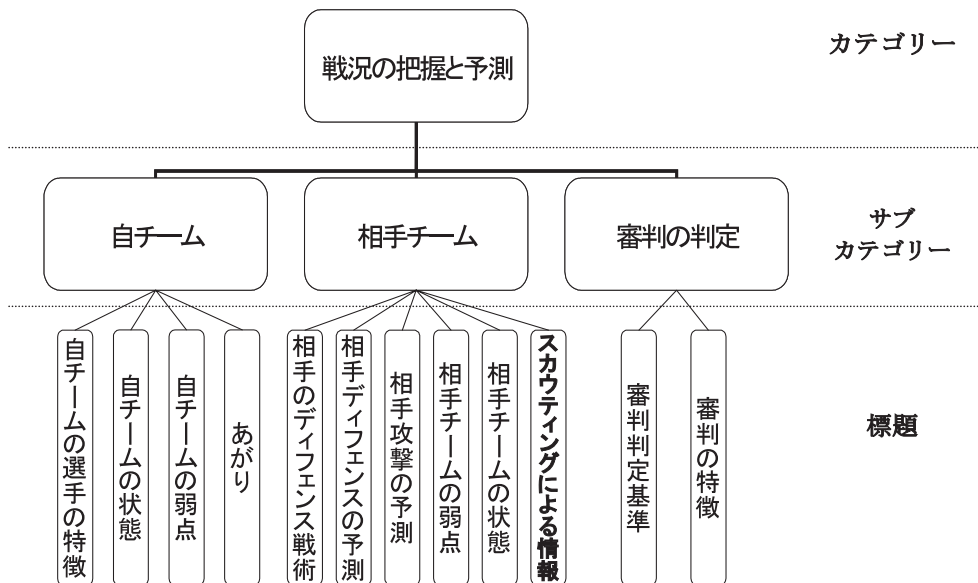


図1 戦況の把握と予測

サブカテゴリー、そしてそれに関連する標題で作成された。試合中エキスパート指導者は、刻々と変化する状況の中で、その戦況に応じてタイムアウトをとるや選手交代などの判断を下していくことが重要な要素になってくる。またその判断を下したときには、作戦やゲーム展開を改善するために修正を加えるような指示をすることを意味している。したがって、このカテゴリーを「戦況の判断と対策」とした。

### 3. 3. 1 タイムアウト

水球競技においてタイムアウトは、自チームがボールを保持している時に限り、各チーム3回ずつタイムアウトを取ることが可能であるが、3回目のタイムアウトは、延長戦に限られているものである。エキスパート指導者は、タイムアウトを試合中のいつ使うかを意識し、試合展開を有利に運ぶための手段としてとらえている。

流れを変えるタイムアウトに触れて、次のように述べている

「相手が乗っちゃうなというときに、それを1回閉ざすために使うとか。相手のいい勢いを止めるために使う」

### 3. 3. 2 選手への心的方略

エキスパート指導者は、試合展開の中で作戦や戦術をうまく機能させるために、また心理的な問題が発生した選手に対する対策のために、選手へ心理面に対する方略を使用している。エキスパート指導者は、試合中においても選手の心理的な側面に非常に注意しているといえる。

鼓舞することに触れて、次のように述べている

「わかっててちゃんとうごいとっても声を大きくしたりして、さあ取った行けっていう次のそのしんどいときにいけという、なんか奮い立たせているという役割はすごくある」

また、注意の喚起に触れて、次のように述べている。

「自分がおもう前に動けば指示することはないんだけど、そうではないケース、そうでない選手に対してはより注意させる意味でアドバイスして」

### 3. 3. 3 戦術修正

試合で、戦況を把握し、チームの状態や作戦の遂行をよりよくするための実践的対策を意味している。指導者が描いているゲームプランとずれが生じたときにすかさず、チームに指示を与えている。

戦術修正に触れて次のように述べている

「攻め方守り方に応じてところで思ったように行かない、と思ったときに指示を出す」

### 3. 3. 4 勝負どころ

エキスパート指導者が、試合の流れの中でこの試合を勝つためのポイントを探り出し、判断していることを説明している。これらの知識は、経験的に得られているものであるといえる。

勝負どころについて次のように述べている

「攻撃のほうだと、やっぱりこう盛り上がりみたいながあるから、後半にチャンスはおとづれるんですよ、それまでしっかり自分たちの攻撃パターンをしっかりと我慢してやれるかという

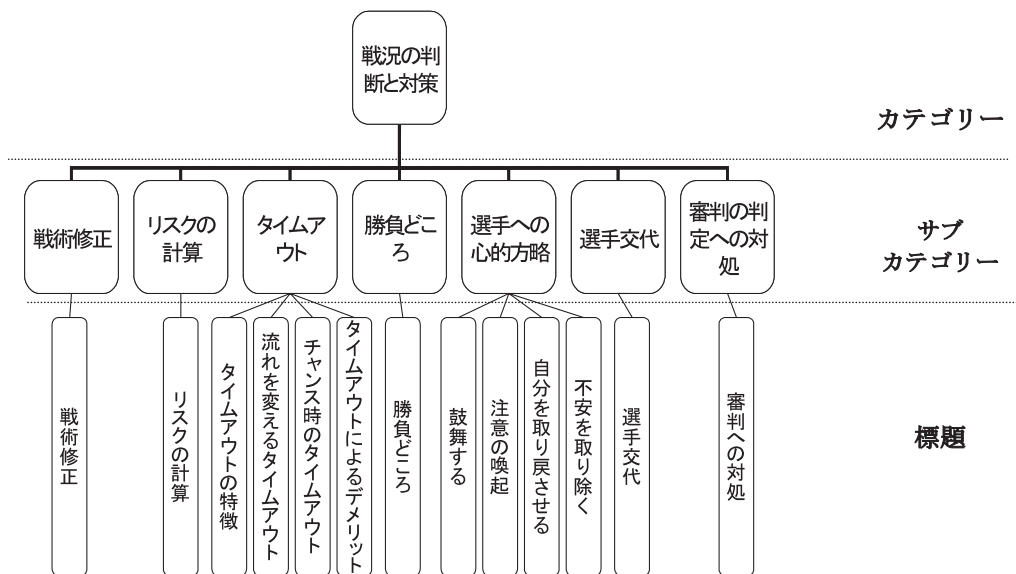


図2 戦況の判断と対策

ころ」

### 3. 3. 5 リスクの計算

ある作戦や戦術行動を行う際、必ず問題点は伴う。このリスクをしっかりと判断し、試合中、作戦変更に関するメリットとデメリットふまえたうえで、適格に指示していくことが必要であることを意味している。

リスクの計算について次のように述べている

「相手がうまく守っているところを無理にそこをまだ点を取っていくというのは、リスクが大きくなるから、そういう判断は、ベンチから出すことがある」

### 3. 3. 6 選手交代

水球競技では交代は、タイムアウト時、得点后、各ピリオドの終了後の他、試合進行中でも、自陣の「再入水エリア」まで戻れば随時可能である。このルールを利用し、何か問題がある選手、また戦術をうまく機能させる為に選手交代を使用している。指導者のベンチワークでとても具体的な対策法である。

選手交代について次のように述べている

「早めにちょっと早めに疲れた奴とか、興奮している奴とか、今までの経験上、少し何かしそくだなっという奴は、交代する」

### 3. 3. 7 審判の判定への対処

水球競技において審判の判定がゲームに及ぼす影響は非常に大きい。選手は普段の練習での判定基準でプレーしているが、試合では選手の感覚とずれたタイミングでファールが取られることがある。これらの審判

の判定に対する選手の不安やずれといったものに対処することを意味している。

審判の判定への対処について次のように述べている

「レフェリーの対応に指示を出したり、ちょっと今日はレフェリーが笛の吹き方が少し違うから気おつけろ」

### 3. 4 コーチのゲームプランと心的コントロール

図3に示しているように、このカテゴリーは、コーチの心的コントロール能力・コーチの試合に対する姿勢・ゲームプランのサブカテゴリー、またそれに関する標題で作成された。指導者は試合中に心的なコントロールし、また試合に臨む指導者の事前に立案されゲームプラン有し、また経験的に習得してきた知識による試合に臨む際の心構えをもって試合中に指示を出していることを意味している。

#### 3. 4. 1 コーチの心的コントロール能力

試合に臨むにあたって、指導者は的確に戦況を把握、予測し、判断しなければならない立場であると同時に選手に感情をぶつけ選手と共に戦っているということも伝えなければならない。また感情を押し出すことで選手の心理面への影響を即している。従ってエキスパート指導者は、冷静さを保ちつつ、感情を出すところでは出すという非常に高度な心のコントロールをおこなっている。

コーチの感情コントロールに触れて、次のように述べている。

「感情は出さないと選手には伝わらないから必要だとは思うんだよね。だけどその一なんという

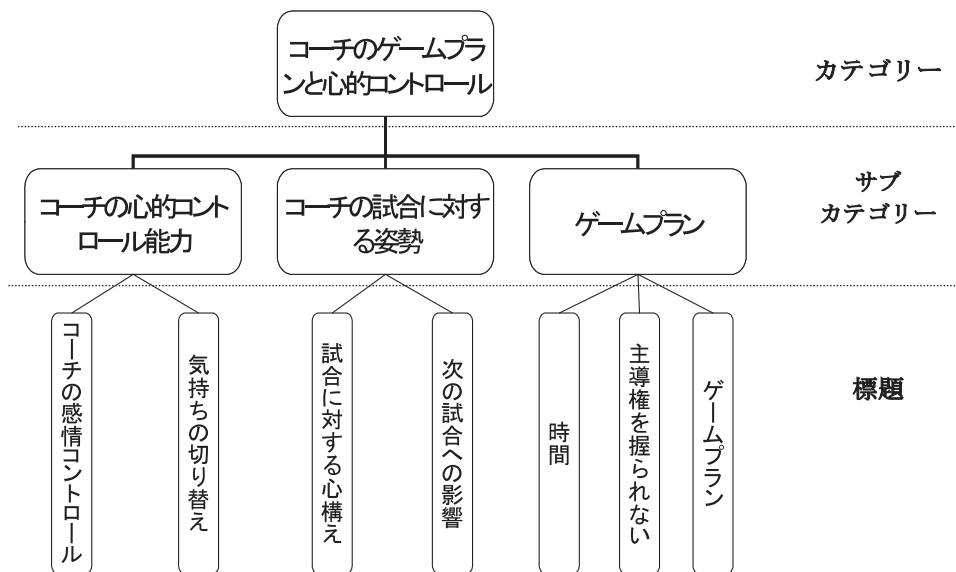


図3 コーチのゲームプランと心的コントロール



か勝つためのことを考えていかないといけない  
ということのを忘れちゃいけない。」

「押し出すときにやっぱ押し出して、でやっぱり  
最初から最後までこっちも続かないかもしれな  
いし極力冷静になる場面を作っておかないとや  
っぱ見過ごすことが多くなると思う。」

### 3. 4. 2 コーチの試合に対する姿勢

指導者が試合に臨むに当たり、指導者として踏まえ  
ておかないといけない事項を意味している。非常に多  
くの事柄を含んでいるが指導者の試合に対する取り組  
み方、姿勢ととらえることができる。

試合に対する心構えに触れて、次のように述べてい  
る。

「もう絶対に100%指示どおりに動けないし、ボ  
ールも運べないし、守れない、誰しもそうだ。」

次の試合への影響に触れて、次のように述べている。

「雑なプレーをさせないようにさせるという努力  
をしないとその次の試合とか駄目になっちゃう  
よね。経験的なものだけだ。」

### 3. 4. 3 ゲームプラン

ゲームプランは、試合に臨むまでに計画され試合中  
に実行していかなくてはならない戦術行動の計画であ  
り、また試合に勝つために練習で取り組んできたもの  
である。これらは指導者が指示する際に中心となるも  
のである。ゲームを有利に進めていく際に行われる、  
作戦変更や戦術の変更では、ゲームプランを比較基準  
として指示している。

時間に触れて次のように説明している。

「35秒を有効に使って、その確実に点を取って  
いくととろろとしていくということを心がけるよ  
うな指示」

「失点を防ぐというためには時間の意識がないと、  
リズム良い攻め、あるいは枚数足りてないカウ  
ンターで点取られるって言うことにつながって  
くるから、時間に応じた攻め攻撃って言うのは  
絶対的。」

ゲームプランに触れて、次のように述べている。

「最初は自分のペース作り、真ん中で勝負を探す。  
それで最後は一気に逃げ切るって具合かな」

「相手の攻撃をセット攻撃に持ち込ませる」

## 4. 考察

本研究においては、図4に示すようにエキスパート  
水球指導者は、これらの知識を有機的に作用させ、効  
果的な指示を試合中に出しているといえる。今回得ら  
れた結果では、3つの要因、状況の把握と予測・戦況  
の判断と対策・コーチのゲームプランと心的能力が提  
示された。Bloom<sup>6)</sup>らの研究では試合中の要素は、2  
つであったことから、本研究はより詳細な結果が得ら  
れたといえるだろう。また、今回得られた結果として  
特徴的なのは、審判といった、水球競技特有の知識だ  
と思われるサブカテゴリーの出現したことである。コ  
ーチングブックなどは、自チームや相手チームのこ  
とを把握することについて記述されていることが多い。  
しかし、水球競技において審判の判定は試合大勢に非  
常に大きく影響することから、水球の指導者は、審判  
に関する知識を、把握して置かなければならないのだ

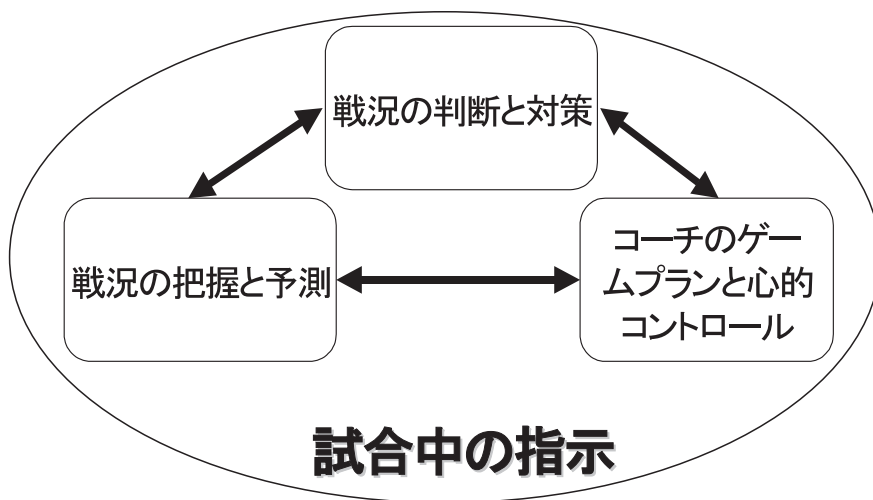


図4 試合中の指示モデル

ろう。この結果は、水球指導者特有の知識としてとらえることができ、非常に大切な知識であるといえる。

今後は、エキスパート指導者と若手指導者の知識の違いや、指導者育成にこれらの知識の有効性を検討していく必要があるだろう。そして、試合における指導者の指示の影響力はどの程度あるのかといった検討も加えていく必要がある。

## 5. 結論

本研究では、日本代表監督経験のある指導者を対象にして、深層的・自由回答的調査面接 (in-depth open ended interview) による定性的データ収集・分析によって行った。分析の結果、最終的に3つのカテゴリー、状況の把握と予測・戦況の判断と対策・コーチのゲームプランと心的能力に分類された。サブカテゴリーは、自チーム・相手チーム・審判の判定・タイムアウト・選手への心的方略・戦術の修正・勝負どころ・リスクの計算・選手交代・審判の判定への対処・コーチの心的コントロール能力・コーチの試合に対する経験的知識・ゲームプランであった。特に興味深い結果として、競技を1つに絞ることにより、水球競技独特の知識も明らかにすることができた。

## 引用文献

- 1) 吉井四郎：バスケットボールのコーチング (現代スポーツコーチ全集), 362-410, 大修館書店, 1977.
- 2) 朝岡 正雄・水上 一・中川 昭 (訳) : スポーツの戦術入門, 大修館書店, 1998.
- 3) 中川 昭 : 「ボールゲームにおける状況判断研究のための基本的概念の検討」, 体育学研究, 28巻4号, 287-297, 1984.
- 4) 杉原 隆・船越 正康・工藤 考幾・中込 四郎 (編) : スポーツ心理学の世界, 52-66, 福村出版, 2000.
- 5) Côté, J., Salmela, J.H., Trudel, P., Baria, A., & Russell, S.J. : The coaching model: A grounded assessment of expert gymnastic coaches' knowledge, *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 17, 1-17, 1995.
- 6) Bloom, G.A. : Characteristics, knowledge and strategies of expert team sport coaches, Unpublished doctoral dissertation, Faculty of Education, University of Ottawa, Ottawa, Ontario, Canada, 1997.
- 7) Bloom, G.A., Durand-Bush, Salmela, J.H. : Pre-and Postcompetition Routines of Expert Coaches of Team Sports, *The Sport Psychologist*, 11, 127-141, 1997.
- 8) Côté, J., Salmela, J.H., Baria, A., & Russell, S.J. : Organizing and interpreting unstructured qualitative data, *The Sport Psychologist*, 7, 127-137, 1993.



